

# 熱中症救急統計

統計期間：平成23年6月1日から8月31日まで  
明石市消防本部 総務課 企画広報係

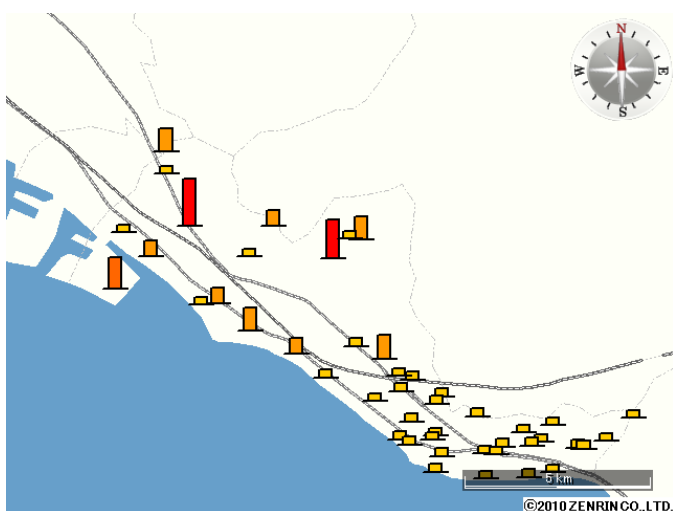
## 平成23年熱中症による救急搬送と気象状況

### 救急状況

平成23年夏期（6月～8月）の明石市における熱中症による救急搬送人員は、70人でした。これは、平成22年の統計値と比較すると17人の減少となります。

救急搬送された方を年齢別でみると、高齢者（65歳以上）が32名（45.7%）と最も多く、次いで成人（18歳以上65歳未満）が27名（38.5%）、少年（7歳以上18歳未満）が11名（15.7%）の順となっています。

また、救急搬送された方を傷病程度別でみると、重症（3週間の入院加療を必要とするもの以上）が1名、中等症（重症又は軽症以外のもの）32名、軽症（入院を必要としないもの）37名で、死亡者の発生はありませんでした。



### 明石市西部地域の方が暑かった？

左図は、熱中症で救急車が出動した地区を表したものです。市のおよそ中央部谷八木川で東西にわけると、東部地域が31名、西部地域が39名と、明石市の西部地区がわずかながら多くなっています。

救急車の出動地区（町名）別統計

出動地区（町名）	搬送人員	出動地区（町名）	搬送人員
明石市魚住町西岡	6	明石市北王子町	1
明石市大久保町大窪	5	明石市西明石南町1丁目	1
明石市二見町南二見	4	明石市小久保2丁目	1
明石市藤江	3	明石市太寺1丁目	1
明石市魚住町清水	3	明石市大蔵谷字東山西山	1
明石市大久保町江井島	3	明石市太寺3丁目	1
明石市大久保町高丘3丁目	3	明石市大明石町1丁目	1
明石市二見町東二見	2	明石市港町	1
明石市大久保町八木	2	明石市中崎1丁目	1
明石市魚住町金ヶ崎	2	明石市林崎町3丁目	1
明石市大久保町西島	2	明石市宮の上	1
明石市大久保町谷八木	1	明石市和坂2丁目	1
明石市東藤江2丁目	1	明石市松が丘1丁目	1
明石市大蔵町	1	明石市明石公園	1
明石市松の内1丁目	1	明石市二見町福里	1
明石市魚住町中尾	1	明石市立石1丁目	1
明石市松江	1	明石市松が丘5丁目	1
明石市大蔵谷字清水	1	明石市魚住町長坂寺	1
明石市上ノ丸1丁目	1	明石市林1丁目	1
明石市大明石町2丁目	1	明石市大久保町大久保町	1
明石市新明町	1	明石市貴崎4丁目	1
明石市二見町西二見	1	明石市荷山町	1
明石市西明石町1丁目	1	明石市大久保町高丘5丁目	1

気象状況

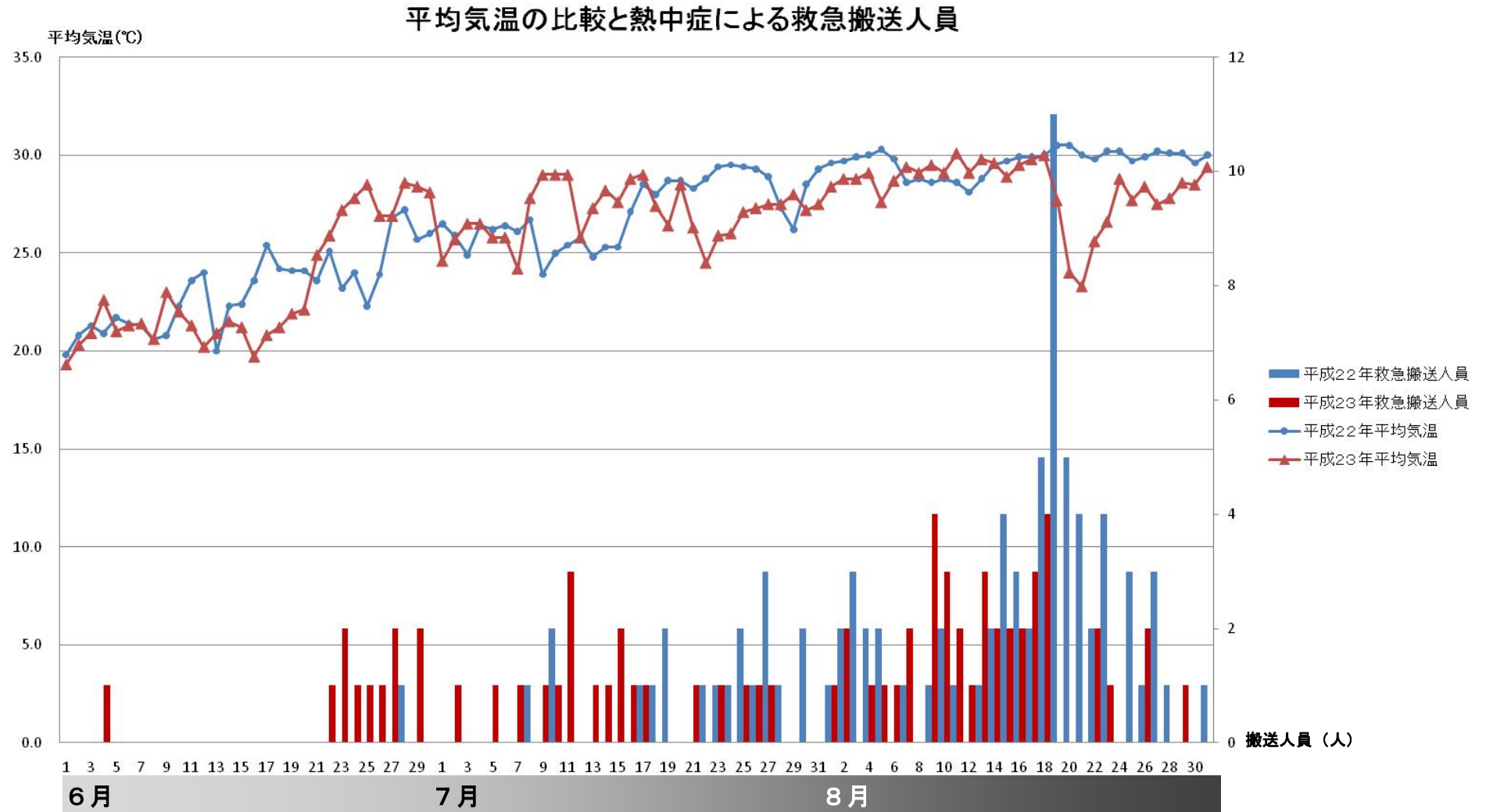
昨年、全国的にも猛暑日が続き、明石市内においても平均気温が30度以上の日が12日ありましたが、今年は2日（8月11日と18日）のみでした。

最高気温でみると、8月13日の34.8度が一番高い気温となっています。

※ 気象観測値は、明石市消防本部気象観測装置による

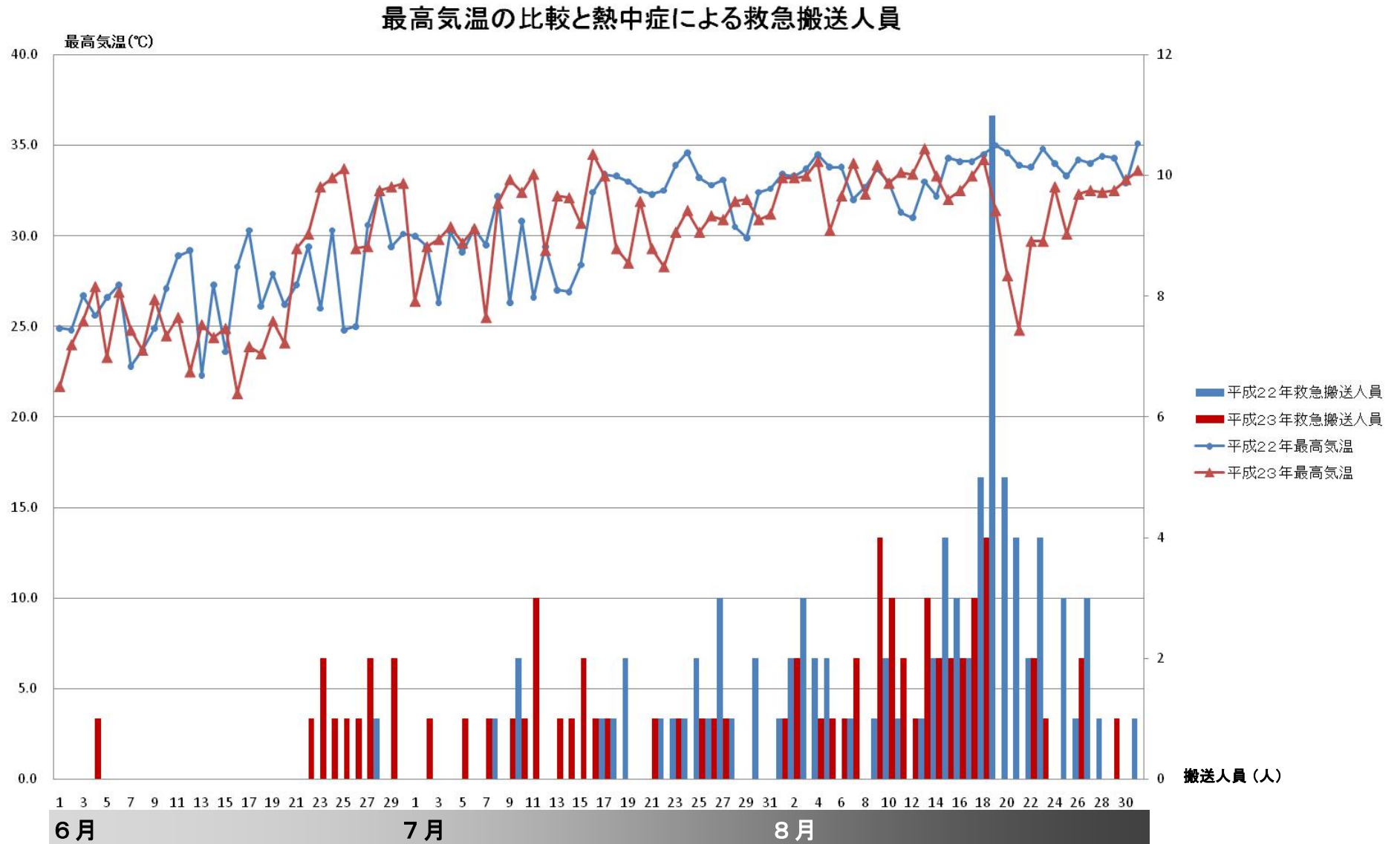
## 平均気温の比較と熱中症による救急搬送人員

下のグラフは、平成23年6月1日から8月31日までの平均気温と熱中症による救急搬送人員を  
昨年の同季データと比較したものです。



## 最高気温の比較と熱中症による救急搬送人員

下のグラフは、平成23年6月1日から8月31日までの最高気温と熱中症による救急搬送人員を  
 昨年の同季データと比較したものです。



# 熱中症による救急搬送者の内訳

## 性別と年齢

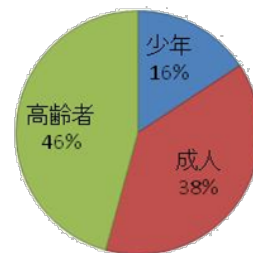
熱中症で救急搬送された70名を、男女別で見ると男性が50名で、女性の20名を大きく上回っています。

また、救急搬送された方を年齢別で比較してみると、0歳から9歳までの搬送者はなく、高齢者（65歳以上）が、32名で全体の約半数を占め、次いで成人（18歳以上65歳未満）27名、少年（7歳以上18歳未満）11名の順となっています。

男女別しらべ



年齢区分別搬送割合

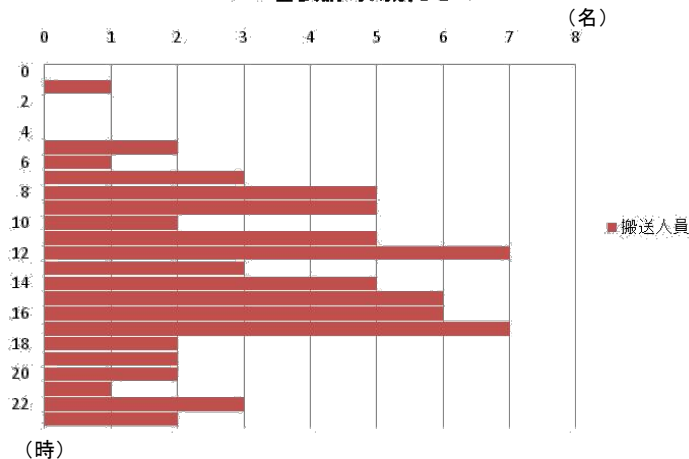


## 救急要請時刻

熱中症により119番要請された時刻をみると、就寝中は少なく、正午と午後5時に多く119番要請されています。

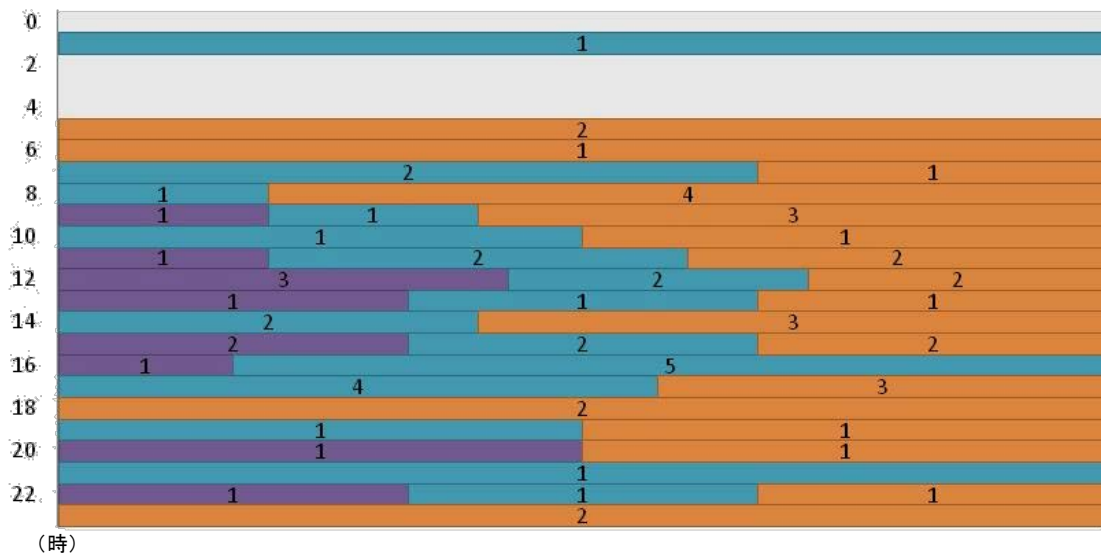
また、119番要請された時刻を各年齢別割合で見ると、午前中は高齢者の要請が多く、午後から、他の年齢層において増加していく傾向にあります。

119番要請時刻別しらべ



119番要請時刻-年齢区分別搬送状況

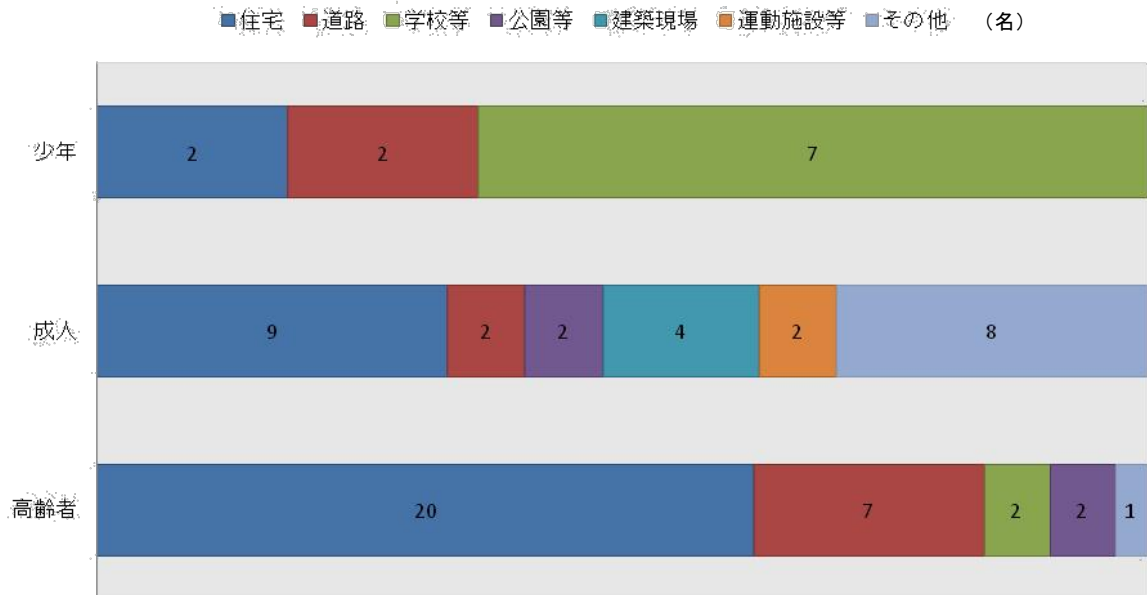
■少年 ■成人 ■高齢者 (名)



## 発生場所

発生場所についてみると、「住宅内」での発生が31名と最も多く、次いで「道路等」が11名、「学校等」「その他」の9名が続いています。

年齢区分別発生場所割合



## 救急要請前の状況

熱中症により救急搬送された方の、救急要請前の行動について、年齢区分ごとにみると高齢者については、屋内で通常の生活をしていても多くの方が熱中症を発症しています。

救急要請前の状況



## 救急搬送者の傷病程度

救急車で病院へ搬送された方の初診時の程度をみると、その約半数以上が軽症でした。

しかし、高齢者の搬送者32名をみると、その6割が中等症で入院加療が必要となっています。

また、10歳から14歳までの小学生についても搬送された半数が、入院加療が必要となっています。

傷病程度別しらべ



### 年齢5歳階級別でみた傷病程度

年齢(歳)	(A) 搬送人員	初診時傷病程度				中等症率 (B)/(A)
		死亡	重症	(B)中等症	軽症	
0～4	0					—
5～9	0					—
10～14	6			3	3	50.0%
15～19	6			2	4	33.3%
20～24	2			1	1	50.0%
25～29	2			1	1	50.0%
30～34	3				3	—
35～39	0					—
40～44	1				1	—
45～49	4			1	3	25.0%
50～54	4		1	2	1	50.0%
55～59	3			1	2	33.3%
60～64	7			1	6	14.3%
65～69	3			1	2	33.3%
70～74	5			4	1	80.0%
75～79	11			6	5	54.5%
80～84	4			3	1	75.0%
85以上	9			6	3	66.7%
合計	70	0	1	32	37	—

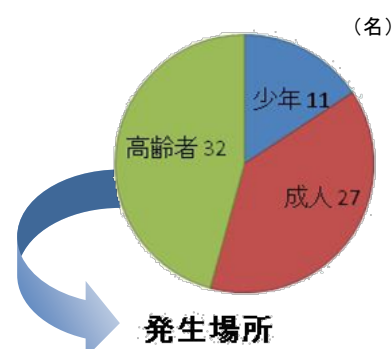
### 高齢者の熱中症

明石市消防本部では、今後更なる高齢化社会の進展にそなえ、救急搬送者の居住形態を今年1月から調査しています。これは、住宅内で発生した救急事案で且つ、その救急搬送対象者が65歳以上の高齢者である場合に、救急隊員が現場での聞き取り状況などから、居住形態を判断し一人暮らし高齢者の方や、老々介護等において119番通報の遅延等を調査し、今後の救急業務に役立てようとするものです。

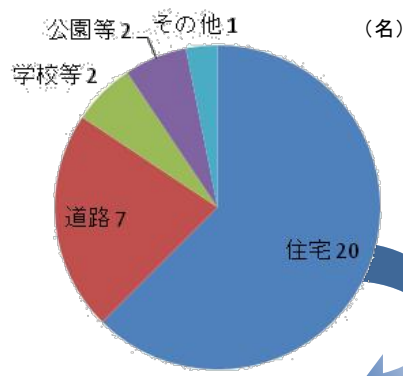
この統計値を利用し、熱中症で搬送された高齢者32名のうち統計対象となる20名を抽出し調査したところ5名の方が、一人暮らし高齢者という結果になりました。さらにこの5名の119番通報状況（発見状況）をみると、①様子を見に来た家族が発見通報2名 ②様子を見に来た付近住民が発見通報2名 ③緊急通報サービスを利用しての通報1名となっています。

さらに熱中症の症状を発症（推定）してから、119番通報までの時間を調査すると、自宅居室で倒れ3日間動けずに発見され、119番通報されたケースもありました。

年齢区分別搬送割合



発生場所



- ・一人暮らし高齢者 5名
- ・上記以外 15名

## 熱中症予防への取り組み

消防本部では、昨年急増した熱中症による救急搬送への対策として、市保険・健康部と連携し、今夏の熱中症予防対策を進めました。

消防本部から、熱中症による救急搬送患者の統計情報を市保険・健康部に提供、これらをもとに市保険・健康部で「熱中症予防対策」のパンフレット」が作成されました。

作成されたパンフレットは、出前講座をはじめ各健康教室や市民救命士講習会開催時に市民の皆様へ配布されたほか、民生児童委員や市関係機関を通じ、一人暮らし高齢者の方や高齢者施設にも配布されました。

熱中症予防対策については、期間中、継続的な広報活動が必要なことから、防災無線による定期的な広報や、市広報誌への掲載、明石ケーブルテレビ等を積極的に活用した広報活動を展開しました。

また、明石市防災センターにおいて市内事業所、学校関係者、市民等を対象に「熱中症予防対策講習会」を開催しました。この講習会では、熱中症予防対策について全国的な取り組みを行っている「大塚製薬株式会社」から講師を招き「知って防ごう熱中症」を演題に、約80人の参加者が熱心に聴講されました。



「熱中症予防対策パンフレットと広報あかし掲載状況」



写真上「明石CATV放映」

写真下「熱中症予防対策講習会」

(H23.7.26 於：明石市防災センター)

